

## 第3章 結果の考察

## 1. 結果の考察

今回の調査は、平塚市民の居留意向、生活の満足感、まちづくりに対する重要度や満足度に対する意識を調査し、今後、まちづくりを進めていくための基礎資料を得るとともに、平成28年度からスタートした「平塚市総合計画～ひらつかネクスト～」に基づいて実施している本市のまちづくりに対して市民がどのように感じ、どう評価しているかを把握することを目的として実施しました。このアンケートの結果により、次のことが明らかになりました。

### ■【1】今後における平塚市への居留意向などについて（問1）～（問4）

【居留意向は8割以上。住み続けたい理由は依然「温暖な気候や自然環境」が上位】

#### 居留意向について

『今後の平塚市への居留意向』については、86.5%の方が「住み続ける」または「たぶん住み続ける」と回答しました。年代別に見ると、年代が上がるにつれて居留意向が高くなる傾向にあります。

また、住み続けようと思う理由としては「温暖な気候で、海、山、川に囲まれ、自然環境が良い」が前回調査と同様に5割を超えています。同項目は、調査を開始した平成25年度から引き続き、平塚市への居留意向につながる大きな要素となっています。

#### 移転意向について

一方、「移転する」または「たぶん移転する」と回答した移転意向のある方は6.3%でした。その理由としては「仕事や学校へ通うのに都合が良くない」が最も多く、次いで「その他」、その次に「家族の都合で」となっています。これらの理由は、調査を開始した平成25年度から引き続き、移転意向の大きな要因となっています。

年代別に見ると10代、20代で移転意向が高く、どちらも「仕事や学校へ通うのに都合が良くない」が理由として最上位であることから、進学や就職をきっかけとして市外へ移転することが多いと推測できます。

#### 魅力や誇りにについて

居留意向とは別に、『平塚市の魅力や誇りに感じる』を伺ったところ、「総合公園などの施設の充実した大きな規模の公園」が42.1%と平成28年度調査結果と同様に高く、2位の「七夕まつりなど、まちぐるみの行事」の26.2%に大差をつけています。

### ■【2】生活の満足感や、困っていること・心配ごとについて（問5）～（問7）

【現在の生活に満足している方は7割以上。ただし、家族の健康や介護に不安を抱く方の割合が増加】

『生活の満足度』については、「満足している」または「まあ満足している」と回答した方が71.1%でした。この割合は10代が最も高く、20代が最も低くなっています。

「やや不満である」または「不満である」と回答した方の割合は、20代が最も高く、次いで30代となっています。20代から40代の困っていることや心配ごととしては「今後の収入や資産の見通し」が最上位であり、経済的な不安感が大きいと考えられます。

平成28年度調査と比較すると、「今後の収入や資産の見通し」や「自分の老後のこと」は減少していますが、「家族の健康や介護など生活上の問題のこと」などは増加に転じています。

また、『悩みや不安を話せる人』について質問したところ、8割以上の方が「家族・親族」、次いで5割以上の方が「友人」と回答しています。年代別では、60代以上の方は「地域や近隣の人」と回答する割合が高くなっています。特に70代以上の方では、12.0%と高く、地域とのつながりが生活の上で重要であることが伺えます。

### ■【3】 地域のために、地域（あなた）ができることについて （問8）～（問10）

【実際の活動につなげていくことが課題】

住みよい地域にするためには、地域の方の関わりが必要であることから、『地域で取り組むとよいと思うこと』、『実際に地域のために行っていること』、『今後できること（してみたいこと）』について伺いました。

地域で取り組むと良いと思うことは、割合が高い順に「子どもの見守りや夜回りなどで地域の安全を守ること」「高齢者や障がい者など地域で困っている人を地域で支え合うこと」、「防災訓練など災害時に地域で助け合えるようにすること」となっています。

『現在行っていないことで、今後できること（してみたいこと）』については、7割以上の方が何らかの取組ができる（してみたい）としており、また、「特にない」と回答した割合は平成28年度調査に比べ減少しており、地域活動への関心の高さが伺えます。

一方で、『現在行っていること』について、「特にない」と回答した方の割合は、平成28年度調査に比べて減少したものの、最も多くなっています。関心はありますが、実際の活動には結びつきにくい状況が伺えます。

### ■【4】 まちづくりの状況について （問11）

「平塚市総合計画～ひらつかネクスト～」に基づいて実施している本市のまちづくりに対して、市民がどのように感じ、どう評価しているかを把握するため、次のとおり分野別施策ごとに分類して伺っています。

分野①：豊かな心と文化をはぐくむまちづくり（問11-1～7）
分野②：安心して暮らせる支え合いのまちづくり（問11-8～17）
分野③：自然と人が共生するまちづくり（問11-18～23）
分野④：活力とにぎわいのあるまちづくり（問11-24～30）

#### ○分野① 豊かな心と文化をはぐくむまちづくり

##### 全体的な傾向

【確かな学力の定着や豊かな心を育成する環境づくりが望まれる】

**重要度**は、項目によって差が大きく、子どもに関する分野で高くなる傾向にあります。子どもに関する分野の重要度は特に20代から40代の子育て世代で高くなっており、4つの分野の全30項目と比較しても重要な分野となっています。これらのことから、未来を担う子どもたちの確かな学力の定着や豊かな心を育成する環境づくりが強く望まれていると考えられます。

**満足度**は、「スポーツを楽しむ（する・観る）環境の充実」の項目で高く、「青少年が健全に成長する環境」の項目で低くなっています。

##### 前回調査との比較

【青少年の健全な育成を社会全体で支えるための取組が必要】

前回調査と比較すると、重要度が0.1ポイント、満足度が1.8ポイント増加しました。満足度を項目別にみると、「青少年が健全に成長する環境」の項目で前回調査から上昇したものの、依然、低くなっています。

調査年度	分野	重要度(%)	満足度(%)
30年度（今回）	分野① 豊かな心と文化をはぐくむまちづくり	59.5	9.9
28年度（前回）	分野① 豊かな心と文化をはぐくむまちづくり	59.4	8.1

## ○分野② 安心して暮らせる支え合いのまちづくり

### 全体的な傾向

【災害に強いまちづくり、日常生活の安心・安全、消防・救急の体制整備が期待される】

**重要度**は、「災害に強いまちづくり」や「日常生活の安心・安全」や「消防・救急の体制整備」の項目が特に高くなっています。理由としては、海や川があるという本市の地理的な特性や、日常生活や生命に直結する項目であることなどが挙げられます。また、「子育て支援の充実」や「健康づくりの推進」の項目でも重要度が高い傾向となっている一方、自治会等の「コミュニティ活動の推進」や「地域ぐるみでの支え合いによる福祉活動」の項目では重要度が低くなっています。

**満足度**は、「消防・救急の体制整備」の項目が全30項目中で最も高くなっているものの、重要度が高かった「災害に強いまちづくり」と「日常生活の安心・安全」の項目では低くなっています。

なお、満足度については、「子育て支援の充実」や「健康づくりの推進」等、分野②の10項目中8項目で平均値以上となっています。

重要度と満足度から、災害に強いまちづくりや日常生活の安心・安全が第一に求められていることが分かりますが、これらの推進には自治会等の地域の力が不可欠であることから、市民の地域活動への意識や行動が高まるよう取り組む必要があります。

### 前回調査との比較

【災害に強いまちづくり、子育て支援の充実が求められている】

前回調査と比較すると、「子育て支援の充実」、「災害に強いまちづくり」、「日常生活の安心・安全」、「消防・救急の体制整備」の重要度が依然として高くなっています。

女性の社会進出や少子化の進展によって、市民意識が一層高まっている子育て支援の充実に向けて、引き続き取り組んでいく必要があります。

調査年度	分野	重要度(%)	満足度(%)
30年度(今回)	分野② 安心して暮らせる支え合いのまちづくり	69.2	14.6
28年度(前回)	分野② 安心して暮らせる支え合いのまちづくり	70.4	11.0

## ○分野③ 自然と人が共生するまちづくり

### 全体的な傾向

【自然環境を守っていくことが望まれる】

**重要度**は、他の分野に比べて相対的に高くなっており、「環境にやさしいまちづくり」や「自然環境の保全」や「交通の利便性の向上」の項目が特に高くなっています。

**満足度**は、項目によって差が大きく、「花やみどりのあるまちづくり」が特に高く、一方、「快適な生活環境の形成」や「交通の利便性の向上」が低くなっています。

本調査の自由意見においても開発によって自然が失われつつあることを危惧する意見もあり、本市の魅力として自然を守っていくことが望まれています。引き続き、豊かな自然環境を本市の魅力として保てるよう、環境に配慮したまちづくりを進める必要があります。

### 前回調査との比較

【交通の利便性の向上が望まれる】

この分野において、満足度が平均値を下回る項目は「快適な生活環境の形成」と「交通の利便性

の向上」となっていますが、「交通の利便性の向上」の重要度は相対的に高く、かつ前回調査よりも高くなっています。また、本調査の自由意見においても多くの声が寄せられていることから、さらなる交通の利便性向上が求められていることが伺えます。

調査年度	分野	重要度(%)	満足度(%)
30年度(今回)	分野③ 自然と人が共生するまちづくり	63.7	17.3
28年度(前回)	分野③ 自然と人が共生するまちづくり	63.2	14.5

## ○分野④ 活力とにぎわいのあるまちづくり

### 全体的な傾向

【商業の活性化と中心市街地の魅力創出が大きな課題】

**重要度**は、「商業の活性化と中心市街地のにぎわいづくり」と「雇用の確保と働きやすい環境づくり」の項目が高い一方で、他の項目は全て平均値を下回っています。これは安心・安全や教育等の分野に比べ、日常生活に直接結びつきにくい分野であることが影響していると思われます。

**満足度**は、「商業の活性化と中心市街地のにぎわいづくり」の項目が特に低く、また、本調査の自由意見でも駅周辺の商業の衰退を懸念する声も多く寄せられています。引き続き、駅周辺の魅力を高め、にぎわいを感じられるまちづくりが求められているといえます。

### 前回調査との比較

【産業分野全体の活性化が課題】

前回調査と比較すると、全ての項目で満足度が増加しましたが、全ての項目において依然平均値を下回っており、引き続き産業分野全体のさらなる活性化に向けた取組が必要です。

調査年度	分野	重要度(%)	満足度(%)
30年度(今回)	分野④ 活力とにぎわいのあるまちづくり	55.5	6.6
28年度(前回)	分野④ 活力とにぎわいのあるまちづくり	55.0	5.7

